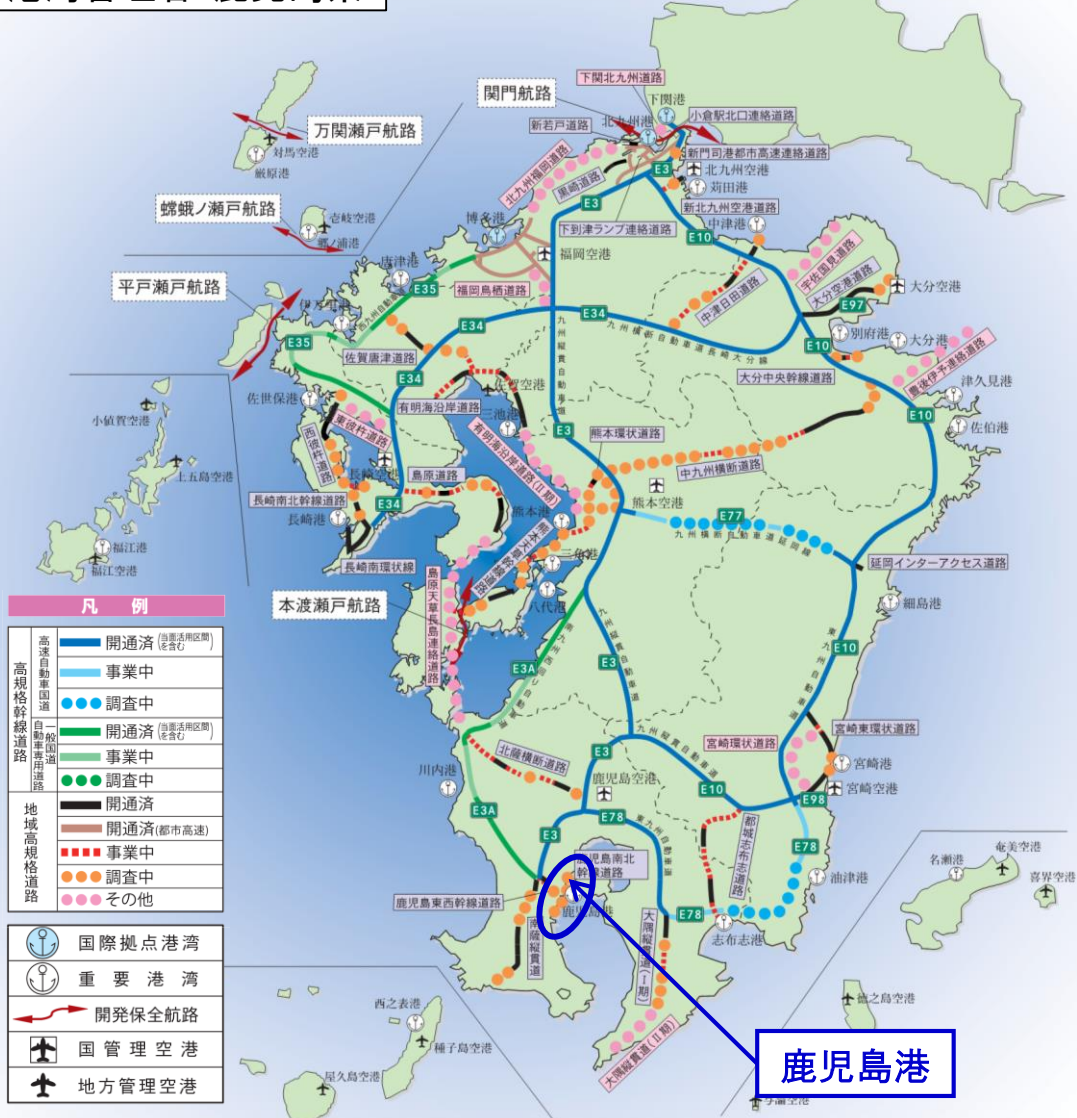


平成30年3月13日
交通政策審議会
第70回港湾分科会
資料1-4

港湾管理者：鹿児島県



計画変更箇所と変更のポイント

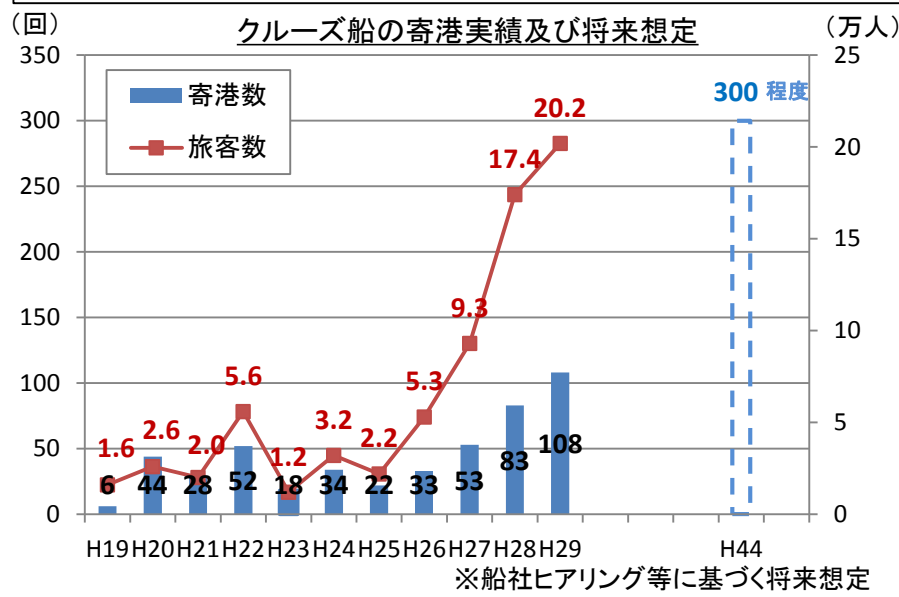


【ポイント】
○クルーズ船の寄港回数の増加及び大型化に対応するため、
中央港区の旅客船埠頭計画等を変更する。



鹿児島港のクルーズ船受入状況

- 中央港区(マリンポートかごしま)の岸壁(水深9m、延長340m)が平成19年9月に供用し、クルーズ船が利用。また、本港区の岸壁(水深9m、延長340m)を離島フェリーと調整しつつ利用。
- クルーズ船の寄港は年々増加しており、平成28年には83回で全国8位となり、平成29年は108回の寄港。
- 各クルーズ船社からは、寄港実績のある船(最大14万トン級)よりさらに大型のクルーズ船が寄港できる環境の整備について要請があり、寄港回数は平成44年には300回程度まで増加する見込み。



港湾名 (港湾管理者)	第1次募集分 (H29.1.31 選定 H29.7.26 「国際旅客船拠点形成港湾」に指定)						第2次募集分 (H30.2.27 選定)
	横浜港 (横浜市)	清水港 (静岡県)	佐世保港 (佐世保市)	八代港 (熊本県)	本部港 (沖縄県)	平良港 (宮古島市)	鹿児島港 (鹿児島県)
船社名							
カーニバル・ コーポレーション &plc	○		○			○	
ロイヤル・カリビアン・ クルーズ				○			○
ゲンティン香港		○			○		
郵船クルーズ	○						



- ※ カーニバル・コーポレーション&plc: 世界やアジアで半分のシェアを持つクルーズ会社グループ。傘下に、コスタ・クルーズ社、プリンセス・クルーズ社などクルーズ・ブランドを有している。
- ※ ロイヤル・カリビアン・クルーズ: オアシス・オブ・ザ・シーズなど世界最大のクルーズ船を有するクルーズ会社グループ。
- ※ ゲンティン香港: 傘下に、スタークルーズなどのクルーズ・ブランドを有し、台湾、香港等を発着するクルーズを多く運航するなど、アジアを中心に運航するクルーズ会社グループ。
- ※ 郵船クルーズ: 飛鳥IIを所有する邦船社。

鹿児島港に係る計画書(目論見)の概要

応募者	鹿児島県、ロイヤル・カリビアン・クルーズ(RCL)
目標とする国際クルーズ拠点の姿	鹿児島と世界をつなぐクルーズ拠点『Kagoshima Port』 ・鹿児島の優位性を活用した東アジアクルーズの拠点化 ・離島の自然等を活かした世界遺産クルーズ ・フライ(レール) & クルーズ
寄港回数目標	運用開始年(H34年):50回、目標年(H44年):130回 (RCLの目標)

国際クルーズ拠点を構成する施設

- ◆岸壁(既設・計画)
 - ①16万トン級対応(既設)
 - ②22万トン級対応(計画)
- ◆旅客ターミナル(計画) <RCL>
 CIQを含む旅客ターミナルビル及び屋根付き通路を整備
- ◆駐車場 <県>

中央港区マリンポートかごしま

岸壁等の利用に係る考え方

- 新たに計画する岸壁(岸壁②)を、RCLが優先的に利用を予定。
- ・優先的な利用を行う期間:当初20年間(最大40年間まで)
 - ・優先的な利用を行う日数:年間最大150日間



鹿児島県内の主な観光地等

○鹿児島港の背後は、桜島などの雄大な自然、仙巖園などの歴史的観光地といった、多数の観光資源に恵まれている。
 ○また、九州の南端に位置し、クルーズ市場の成長著しい中国など東アジアに近接し、地理的優位性も高く、寄港隻数は年々増加している。



鹿児島港背後における主要な観光地

(中央港区から約10km)



(中央港区から約9km)



(中央港区から約9km)



(中央港区から約10km)



(中央港区から約35km)



(中央港区から約20km)



(中央港区から約20km)



○マリンポートかごしまは、平成19年に1期1工区の供用を開始し、旅客船ふ頭とあわせ、県民や観光客が憩い、海と触れあえる緑地空間、災害が発生した場合の対応空間として、また、離島等の急患搬送用ヘリポートとして多目的に活用されている。(H28来園者:約124万人)

○初日の出イベントや凧揚げ大会、クリスマスイルミネーション等の各種イベントやスポーツ大会等が開催されており、県民だけでなく、訪れるクルーズ客がイベントに参加するなど、鹿児島と世界をつなぐ玄関口としての役割を果たしている。

リレーマラソン



フリーマーケット



クルーズ船寄港



マリンポートからの眺望



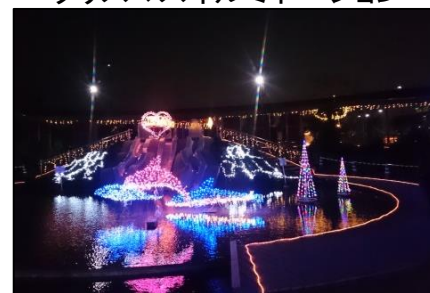
親水広場



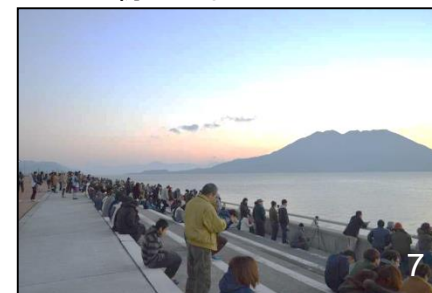
凧揚げ大会



クリスマスイルミネーション



初日の出イベント



寄港する主なクルーズ船社の配船実績

○鹿児島港には、コスタ・クルーズ社やスター・クルーズ社など、多くの船社のクルーズ船が寄港している。
 ○中国や台湾等の各港を起点に、多くのクルーズコースが運航されているほか、ワールドクルーズも寄港する。

鹿児島港へ寄港するクルーズ船の代表的なコース

代表的なクルーズコース実績

- 上海－鹿児島－上海
- 上海－鹿児島－博多－(济州)－上海
- 上海－鹿児島－長崎－(济州)－上海
- 天津－鹿児島－(博多)－天津
- 基隆－鹿児島－広島－(高知)－別府－基隆
- 基隆－那覇－鹿児島－細島－基隆
- 大阪－横浜－清水－鹿児島－上海－大阪－横浜
- 舞鶴－境港－釜山－長崎－鹿児島－宇和島－広島－宇野－大阪

平成29年に寄港した主なクルーズ船と起点港（12月末時点）

船名	寄港回数	主な起点港	総トン数 (t)	全長 (m)	喫水 (m)
コスタ・セレーナ	23	上海	114,147	290	8.3
スーパースター・ヴァーゴ	20	上海 基隆	75,338	268	7.9
コスタ・アトランチカ	11	上海	85,619	293	8.1
サファイア・プリンセス	8	上海 基隆	115,875	290	8.1
MSCリリカ	8	天津 廈門	65,591	274	6.8

出典：鹿児島港の寄港実績（平成29年12月末）

今回計画の内容

- 中央港区(マリポートかごしま)において、旅客船専用の岸壁を計画し、クルーズ船の2隻同時接岸及び大型船の寄港を可能にする。
- 大型クルーズ船は中央港区(マリポートかごしま)において受け入れる。本港区北ふ頭においては、通常は離島フェリーが利用しているが、クルーズ船社からの寄港意向に応じて利用調整し、年間最大20回程度まで受入れ可能。



寄港対象とするクルーズ船の船型

【延長】

Oasis of the Seas
(世界最大船長のクルーズ船)



全長 : 361m 必要延長: 410m
 型幅 : 47m
 満載喫水: 9.3m
 総トン数: 225,282トン
 旅客定員: 5,400名
 国内寄港: 未定
 アジア寄港: 未定
 初就航: 2009年

【水深】

Queen Mary 2
(世界最大喫水のクルーズ船)

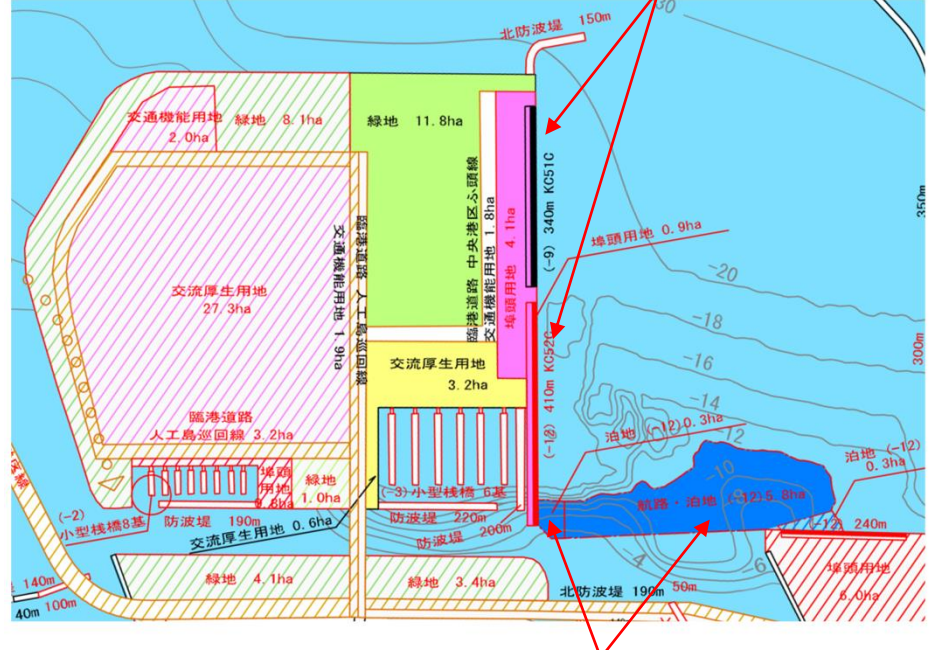
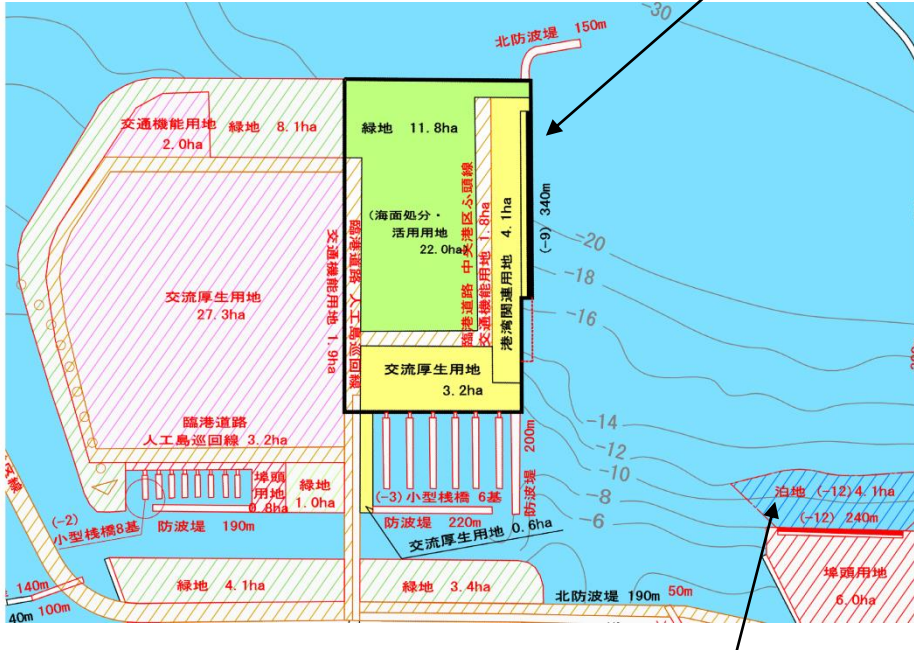


全長 : 345m
 型幅 : 41m 必要水深: 12m
 満載喫水: 10.3m
 総トン数: 148,528トン
 旅客定員: 2,592名
 国内寄港: 横浜港、大阪港、長崎港
 アジア寄港: 上海港
 初就航: 2004年

確認事項	「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」との適合
魅力ある交流空間の形成	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>4 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理</p> <p>③ 観光や海洋性レクリエーションを核とした交流空間の形成</p> <p>観光による地域の活性化や人々の交流を支えるフェリー、旅客船、クルーズ船等の多様な要請に対応した、快適で利便性の高い交流空間を形成する。このため、地域の特性に配慮した旅客ターミナル施設や交流施設を整備する。また、まちづくりと一体となって、水際線を有する魅力ある空間を形成する。さらに、運河等を活用して水上ネットワークを活性化するとともに、地域の観光資源等を活用した水辺の賑わい空間を創出する。(後略)</p> <p>5 クルーズ船の受入れの促進</p> <p>クルーズ需要の増加に対応し、観光立国の実現や地方創生に寄与するため、各港湾の寄港需要に応じたクルーズ船の受入環境を整備する。特に、クルーズ船の寄港回数が多い港湾では、必要に応じてクルーズ船を専用的に受け入れる岸壁や多くのクルーズ旅客の乗降に対応できる旅客施設、十分な面積の駐車場等を整備する。</p> <p>さらに、ポートセールス活動、港湾や港湾周辺の観光情報の一元的な発信などの取組により、ハード・ソフト一体となった施策を展開する。また、クルーズ船の受入れに当たっては、地域の観光資源や特色ある産業等を活用し、関係者が連携して寄港地としての魅力の向上に向けて取り組むことにより、地方創生に貢献する。</p> <p>V 港湾相互間の連携の確保</p> <p>1 港湾相互間の連携に関する観点</p> <p>① 経済的な観点からの連携</p> <p>(前略)また、観光による広域的な地域の振興を促進し、国内外のクルーズ船等の就航を促進するため、様々な魅力を持った背後地域を有する港湾間における連携を強化する。この際、港湾に近接した観光資源に限らず、内陸部に位置する観光資源としての魅力が高い地域との連携を進める。</p> <p>2 各地域における港湾相互間の連携</p> <p>⑨ 九州地域</p> <p>(前略)また、環黄海圏の観光交流を一層促進するため、東アジア地域とのクルーズ船のネットワークの充実に向けて、九州地域における各港湾が連携して取り組む。(後略)</p> <p>VI 官民の連携による港湾の効果的な利用</p> <p>クルーズ船の受入拠点を形成するため、港湾管理者とクルーズ船社等の連携による港湾の効果的な利用を推進する。</p> <p>特に、港湾管理者が、当該港湾への寄港を希望し、自ら寄港地の利便性を高めるために旅客施設等を整備する意向をもつクルーズ船社と連携する場合、その意向やニーズを取り込むとともに、その活力を活用しながら、長期安定的な寄港を確保する国際クルーズ船の受入拠点の形成に取り組む。</p> <p>このような取組を行う港湾を国際旅客船拠点形成港湾として指定する。当該港湾の港湾管理者は、関係者と調整し、国際旅客船拠点形成計画を作成する。さらに、当該港湾管理者は、旅客施設等を整備するクルーズ船社等と、係留施設の優先的な利用や当該旅客施設等の一般公衆への供用等に関する官民連携国際旅客船受入促進協定を締結することにより、当該計画に定めた取組を推進する。</p> <p>なお、国際旅客船拠点形成計画の作成に当たっては、当該港湾の港湾計画等との整合を図るとともに、官民連携の推進と公共的な利用の確保を可能とする管理・運営、魅力ある寄港地観光の造成、地場産業の活用等による地域振興への貢献、観光等の地域の関係者の連携による推進体制の構築に配慮する必要がある。</p>

【旅客船埠頭計画】
水深9m 岸壁1バース 延長340m
[既設]

【公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画】
水深 9m 岸壁1バース 延長340m [既設]
水深12m 岸壁1バース 延長410m [新規計画]
埠頭用地 4.1ha [既設の変更計画]
埠頭用地 0.9ha [新規計画]



【水域施設計画】
泊地 水深12m 面積 4.1ha
[既定計画]

【水域施設計画】
泊地 水深12m 面積 0.3ha [新規計画]
航路・泊地 水深12m 面積 5.8ha [新規計画]